



ダヴィンチ・コード

町長 大谷隆照

世評の高い映画「ダヴィンチコード」を観ました。期待に違わぬ映画でしたが、謎ときの面白さという点では原作に及ばないと思いました。

この映画の話題性は何といても、「イエス・キリストはマグダラのマリヤと結婚し、子をも

うけ、その血筋が今なお受けつがれているとし、それを裏づける証拠の品々を聖杯という名の下に、ある特定のグループが代々守りつづけている」という従来のキリスト教のイメージを根底から覆すような、その物語りにあります。

このことは、イエスは神の子であるというキリスト教の立て前からすれば、とても具言の悪い話かもしれません。しかし、クリスチャンでもなんでもない私からすれば「そんな話はあたり前のことじゃないか」ということになりません。

仏教の方でいえば、お釈迦様は29歳のとき妻子をすてて出家し、6年間の修行を経て、35歳で悟りを開き、その後80歳で病で亡くなりました。肉体的には普通の人としての生涯をおくったわけですね。

しかし、仏教という宗教としてはお釈迦様は35歳で悟りを開いたときに普通の人ではない、仏様になったとされています。そこを信じないと仏教になりません。

キリスト教は神の子、仏教は仏様を前提にして成り立つわけですが、いずれにしても歴史的事実と宗教的現実がちがうのは当たり前のことです。この両者を一致させようとすれば、どうしても矛盾がでてきます。この矛盾を白日の下にさらしたのがこの「ダヴィンチコード」の功罪といえるのではないのでしょうか。

思いやりの心で明るい社会を

五霞・境 人権・同和教育研修会が開催される

差別などの現状について、自身の体験などを通じて時にはユーモアを交えて、非常にわかりやすく説明されました。

また、差別をなくすためには、日常生活の中で差別に気づいたら、それを無くすような努力と行動を起こさなければならぬことなどを熱心に話されました。

講演終了後は、「心のどこかに」という啓発映画を鑑賞しました。

町でも、人権・同和問題は重要な課題として、今後も引き続き各種差別解消のため、啓発活動等を行っていきます。



6月5日、五霞町中央公民館において五霞・境 人権・同和教育研修会が行われました。

当日は、五霞町並びに境町の小・中学校の教職員等を対象に行われ、約240人が参加しました。

研修会では、千葉敬愛短期大学教授の松本峰雄先生から「人権と同和問題」と題し、講演が行われました。

講演では、人権についての基本的事項や同和問題をはじめ、いじめなど子どもの人権問題、高齢者の人権問題、女性に対する差別、セクシュアルハラスメント、障害者や外国人に対する



第56回 「社会を明るくする運動」のお知らせ

「社会を明るくする運動」は、すべての国民が犯罪・非行の防止と罪を犯した人や非行をした少年の更生について理解を深め、それぞれの立場において力を合わせ、犯罪や非行のない明るい社会を築こうとする全国的な運動です。

本運動は本年度56回目を迎えますが、重点目標を「犯罪・非行の防止と更正の援助のため、地域住民の理解と参加を求め」とし、統一標語として「ふれあいと 対話が築く 明るい社会」を掲げ、7月を強調月間として全国的にキャンペーンが展開されます。

すべての人が、共に生きられる社会を目指して、まずは、興味のあることから、私たちの暮らしから社会について考えてみませんか。

お問い合わせ

第56回「社会を明るくする運動」茨城県実行委員会事務局
☎029(221)3916